

| | | | |
|-----|---------|------------|----|
| 第3章 | その他の鉱工業 | 学習日 月 日 | 名前 |
|-----|---------|------------|----|

【 韓国 】

1970年代までは繊維など軽工業中心

1980年代から重化学工業が発展

《 京仁工業地域 》

(1)

首都、総合工業地域

繊維・機械・科学

(2) = 仁川

大規模な空港

《 南東沿岸工業地域 》

(3) = 釜山

韓国第2の都市、ハブ港

鉄鋼・自動車・造船・電子機器

(4) = 蔚山

石油化学コンビナート、造船

(5) = 浦項

日本の援助による鉄工所



※ 韓国にはサムスンという大企業がある。半導体では世界第二位、スマートフォンでは世界第一位をほこる。

※ ヒュンダイ財閥などを中心に自動車の生産もさかん。生産台数は世界6位、輸出台数は世界4位。

(1位 ドイツ、2位 日本、3位 メキシコ)

【 ベトナム 】

かつては旧ソ連の援助を受けて社会主義経済化を進めてきた。しかし、1980年代に経済は悪化。

1986年に(6) = ベトナム語で刷新)政策を展開。中国型の社会主義市場経済を目指した。

その結果 1990年代に入ると経済は大きく発展。日本やアジア NIEs、欧米の資本が導入された。

発展の要因は

- ・ 人口が多いこと(7900万人)
- ・ 石油・石炭資源が豊富であること

【 インド 】

1850年代に近代的綿工業がおこる

1890年代にインド製鉄という会社が設立される

1910年代からタタ製鉄が生産を開始

独立後政府主導で工業化が推進されるも停滞

1980年代から自由化政策がとられ、90年代から本格化

海外からの直接投資によって現在大きく変わっている

(7)

ベンガル湾沿岸の都市。ジュート(黄麻)を原料としたジュート

工業 = 繊維工業がさかん

(8)

デカン高原で栽培される綿花を利用した綿織物工業がさかん

(9)

チェンナイの西部の都市。もともとはデカン高原の避暑地であったが、近年先端技術産業が発達。「インドのシリコンバレー」と呼ばれる。

※ インドでIT産業がさかんになった理由

- ① 理数系を幼少期から伸ばし、高等教育まで発展している → インド工科大学など
- ② イギリスの植民地であったため英語が広く普及している
- ③ アメリカと昼夜が逆転する時差 → 顧客はアメリカが多かった
- ④ カースト制度 … 差別的な社会制度



【 ブラジル 】

ブラジル北部のアマゾン川流域で開発が進んでいる。(10)や(11)

()などのハイウェイが1970年代に完成。パンアメリカハイウェイも建設中。

(12)… アマゾン川中流の河港。自由貿易地域に指定され、電子産業、精密機械工業が発展

ブラジルは(13)の先進国である。さとうきびを原料とした(14)の生産がさかん。

→ 世界のエタノール生産の4割がブラジル

【 メキシコ 】

1億2700万人の人口(平均年齢は30歳未満！)と安い労働力、アメリカと隣接している立地を活かし、自動車工業などがさかん

また、様々な自由貿易協定(FTA)を締結

日本・EUなど様々な地域・国と自由貿易協定を結ぶ

NAFTA(北米自由貿易協定)は2020年にUSMCAとなった